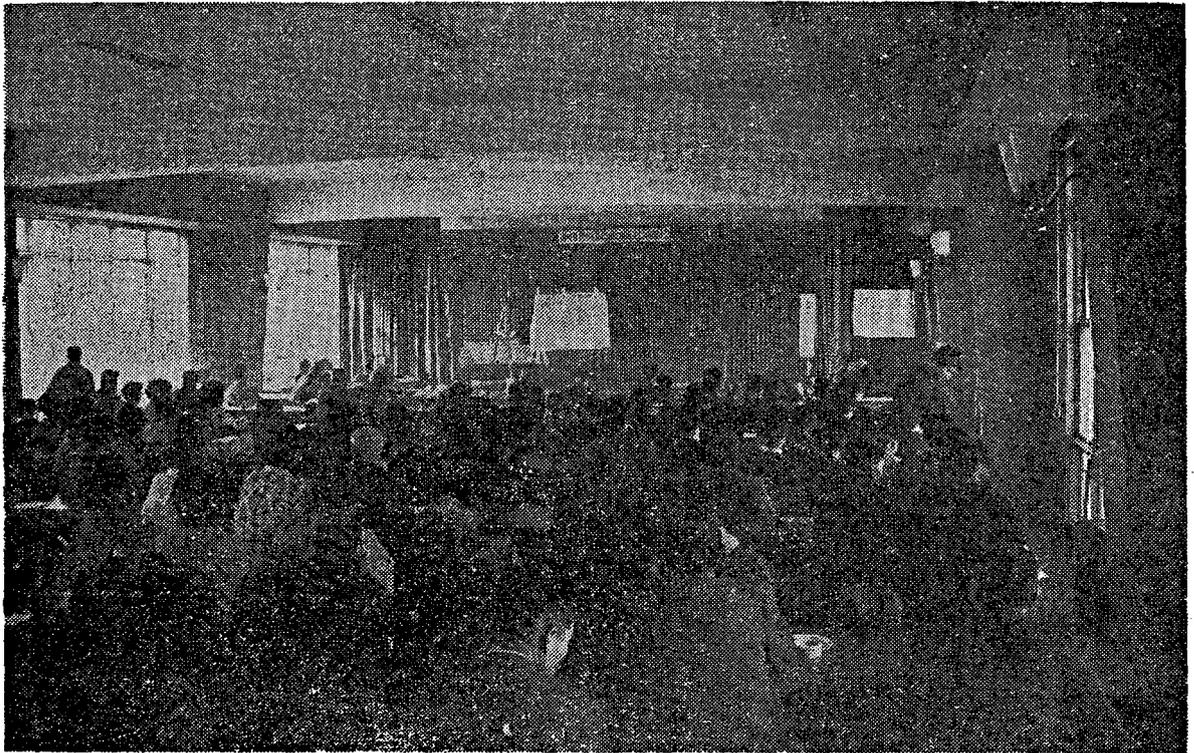


# 拓水

第六号昭和卅七年二月十五日発行  
毎月十五日一回発行 一部 十円  
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

二 月



(第10回水産業改良普及研究発表兵庫大会)

兵庫県漁業協同組合連合会  
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

## 電話番号変更お知らせ

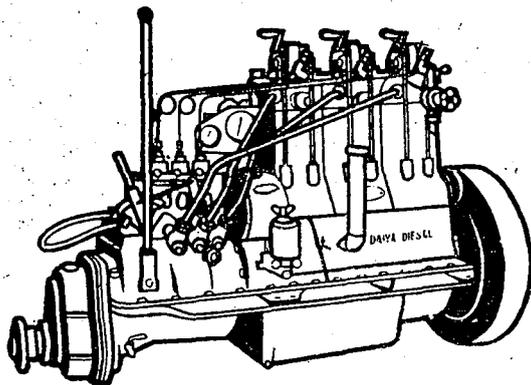
37年1月21日午前0時より下記の通り電話番号が変更になりましたのでお知らせ致します

事 務 所 名	新 番 号	備 考
兵庫県立水産会館 (交換台)	⑥7 6 3 0 1 0 5 6 3	平 日 9時~17時まで 土 曜 6時~13時まで
兵庫県信用漁業協同組合連合会	⑥8 0 1 9 3	直 通
兵庫県内海漁業協同組合連合会	⑥7 3 4 2 4 3 4 2 5	直 通
兵庫県漁業協同組合連合会 兵庫県漁業信用基金協会 全水共兵庫県事務所 財団法人兵庫県水産業改良普及協会 財団法人兵庫県漁村育友会 兵庫県漁業株式会社	⑥7 6 3 0 1 0 5 6 3	平 日 9時~17時まで 土 曜 9時~13時までは交換台に なります上記以外の場合 ⑥7 6 3 0 2は県連事務所 直 通 ⑥7 0 5 6 3は宿泊所へ直通

# 三菱タイヤディーゼル

## 漁船用三菱タイヤ

3~60馬力



調子は天下一品

力は横綱

### 特 徴

- 1、信頼性 耐久性が大
- 2、取扱簡単で始動が容易
- 3、油が経済的

総代理店

(株) 山陽ダイヤ商会

神戸市兵庫区東柳原町70 電話5-1125

営 業 所 松江市・笠岡市・児島市

# 水産業改良普及研究発表 兵庫県大会終る

去る二月七日水産会館において第十回兵庫県水産業改良普及研究発表大会が開催されたのでその模様をお知らせして今後とも御協力下さるようお願いしたいと思います。

当日は幸か不幸か二月上旬にしては非常に稀な天気になり出席者は予想より少ないようであったが、例の如く三浦大会会長の挨拶が始まる頃には会場もほほ一杯となってきました。

今回の発表は男子が四、婦人部が六で男の発表が少なくなって数回前の本大会に比し一抹の淋しさを感じさせられました。殊に内海側からは一つの発表もなかったことは工業地帯造成の声が大きだけに特に考えさせられるものがあります。然しその反面婦人部の発表が多くなってきたことは、非常に結構な事で、これにより沈滞気味の男性を刺戟してくれるものと思います。発表内容等については後刻印刷物として配布する予定でありますので説明は省略しますが特に過去の発表になかったもので「クラブと共に十年」と題する柴山港水産研究クラブ所属今西延一君の発表は過去をふり返り、今後のクラブのあり方の一方を示しているもの

でその発表のタイミングの点でも非常によかったと思われれます。大休午前中に発表を終って午後は今回初の試みである青年を主とした討論会に入りました。テーマとしては「クラブ活動の反省と今後のすすめ方」で司会には、但馬連合クラブ会長谷岡君と淡路連合クラブ会長田中君が当り、クラブ代表者二十四名、それに水産課係長、但馬、淡路両指導室長及び水試場長、普及調査課長が参加して開かれました。いろいろと有益な意見が出され、特に普及員とクラブの結びつき等の点では制度上にも問題はあられるわけですがお互に充分考へて行くべき事と思えます。此の討論会の様子については項を別にして詳細お知らせしますのでここでは割

愛しておきます。此の討論会をもって第一日を終り翌日本大会の行事として、魚群探知機のメーカーである古野電機株式会社西宮の新工場を見学に行きましたが参加者は総勢六十名で新製品である「ネットゾンデ」(曳網が水深何米の所を曳かれているかを知る機械)の説明その他ローラン、魚群探知機に対する知識を深めて開散しました。最後に本大会を省みて感じた事を簡単に記して筆をおくことにします。

今回は今までの県大会と異り発表は技術にこだわらず何でもよい。又決してコンクールではないことを示して来たのですが未だ充分徹底していかないようであった。討論会は初めての試みで実際どのようなか心配であったが皆熱心に活潑な意見が出て非常に有意義であったと思つた。最後に各漁業協同組合の組合長及び幹部の方々にお願いですが皆様方は非常にお忙しい事と思えますができるだけ多数御来場の上クラブ員を励まし御援助下さるようお願いいたします。

なお本号では大会会長の挨拶並びに兵庫県知事の祝辞を掲載し、討論会の内容については次号に掲載したいと思えます。

## 目次

水産業改良普及研究発表  
兵庫県大会終る  
.....2

全国婦人のつどいに参加して  
北井 りよ.....5

いかなどの漁況予想  
水 試.....6

第二十八回  
全国水産品評即売会の  
開催について.....7

昭和三十六年十一月の  
海面漁業漁獲量の概要  
農林省兵庫統計調査事務所  
.....8

## 開会の挨拶

大会々長 三浦清太郎

県当局と漁連との共催による、改良普及研究発表大会を、茲に開催するに際しまして、関係各位に於かれましては、何かと御多忙中殊に厳寒の真中にも抱らず、御多数御出席得ました事を厚く御礼申し上げます。尚、来賓諸賢の御臨席を深く、感謝致します。

扱て、昨年中に於ける我国経済界の動きは、前半は岩戸景気に陶醉の観がありました。後半の景気は俄然崩壊して、株式の大暴落や、厳しい金融難にあえぐ結果となったのであります。今年、今年の景気の動向を考えてみますと、昨年とは逆に前半は悪いが後半は稍々落付きを得て、可成良くなるのでないか、既に、雨曇、後、晴のような恰好になるのでないかと思ふのであります。更に、本年の我国漁業界の動向に至りましては、漁業法、水協法の改正、沿岸漁業等、振興法の制定等、漁業に関する諸法令の改正の年であるので、層ての曲り角言々と言う意味は解消されて、我漁業界の方向と、その指針が決定される意義ある年になる

と考えるのであります。

ところが、この沿岸漁業振興とは、その実そう新しい文句ではないのであって、約三十年来言い占めさせて来た言葉であつて、又、毎年それなりに沿岸漁業の題目が掲げられ、更に数十年にわたる種々な試みがなされてきた。そうした事の集約が、今年には明確に法文化されて、構造改善事業など一環した施設が始まるうしている、そうした意味では、本年度は画期的な年として期待を持つことが出来るし、何等かの形で何か大きな変革をもたらす年であるかも知れないと言う、希望を抱かせるのであります。ところで新しい年を迎えてまず思ふ事は、今年こそは漁協系統にとって良き年にしたいと云う事であり、空前の成長を遂げた日本経済の中でたとえ僅かながら、その生活の水準の向上は見たとは云え、漁村の繁栄は尚道遠しと言ふ現状にあり、又、年々増加する漁獲量が私達に教えるものは、資本漁業と沿岸零細漁業の格差を益々引離すだけに過ぎぬのであります。こうした漁村振興については、すでに行政面からの対策は行なわれ、今後大いに推進してもらふことが望まれますが、それよりも何よりも

ず我々系統人が、系統に生きると言ふ強い自覚こそ必要であり、又、この自覚の上に立つてこそ漁村の構造改善も可能なりと思ふのであります。

ところで我業界関係の具体的な動向を一寸拾つてみますと、先づ水産庁の三十七年度予算の面では、漁港関係を除いて約十億円の増額に過ぎぬのであります。その内容に於いては前向きの新味のある予算が多く、殊に瀬戸内海関係には栽培漁業実践センターの設置費、九千四百万円の予算で、高級魚類を人工浮化して一定の限度育てた上で海中に投入すると云う、画期的なしかも新しい事業が実施されるのであります。

又、水産庁の機構改革の面では、次長制を廃止して全国八ヶ所の農林署と農林水を併合強化して、局長クラスの出先機関が設置され地方分権の実が挙げられる事、又、農林中金に於いても高度の民主化と共に、体質改善を来る三月中に実施されるのであります。又、全漁連も目下機構改革の準備中であり、更に本県漁連も指導事業強化の意味で、出資性による指導漁連創設が目下準備中であり、尚、本県に於いては、昨年暮に県条令による農林審議委員会が設

置され、又、去る本月二日に転業対策協議会と漁村構造改善促進協議会が発足したのであります。殊に、構造改善事業は今年には宮城、愛知、京都、山口、長崎の五県に実施され、来年は本県を含む八県に実施される予定でありまして、況や、我漁業界は層てない多事多端な年であると考えるのであります。

ところでおよそ真の福祉とは、只、漫然たる享楽すべき賜り物でなく、我々自から営々として追求し、額に汗して建設すべきものであり、又、問題のない所に進歩はなく、困難を克服することなくして飛躍と発展を望む事は出来ないと思ふのであります。

又、構造改善事業とは多額の金を要する事は勿論であります。但し、基本的要素は関係者の自主的精神なりと考へるのであります。そこで青年諸君に望みたい事は、たとえば相撲道では、力、わざ、出足、この三つがもっとも大切であるに等しく、諸君の仕事の面に於いては、意欲、工夫、努力、この三つが全く大切である事を特に御留意ありたいと存するのであります。凡て、斯くの如き我業界の非常時を良く認識把握されると共に、幸い今年には威勢の良い

寅の当年年でありますので、決意を新たに、明日の漁村の為に大いに奮起努力下さる様特に切望致します。

祝 辞

兵庫県知事 阪本 勝

立春を過ぎたばかりで、寒さも厳しい最中に、県下漁村の中堅となるべき皆さん方が、元気な姿で一堂に会されて、平素の御苦心の程を發表されることは、誠に喜ばしい限りでございます。我国の水産業の現状をみますと、近代産業のめざましい発展に支えられた国民経済の著しい伸びにも拘らず、沿岸漁業は不振を続ける他産業就業者との格差は大きくなるばかりで、漁家の生活が苦しいということとは誠に重大な問題であります。

政府におきましては、沿岸漁業の窮状を打開するため、昭和三十六年度から沿岸漁業構造改善促進対策を實施して漁家の所得の向上を図ろうとしております。本県におきまして、昭和三十六年度から沿岸漁業構造改善対策地域の指定をうけ、又従来からも各種の水産業振興対策を講じてまいりましたが、裏日本、瀬戸内海ともに抜本的な起死回生の方策

というものは仲々みつからないものであります。このことはむしろ皆さん方がよく御存知のことと思ひます。

幸い県財政も漸く明るい見通しとなりましてので、今後は政府の施策に歩調を合せていくことは勿論であります。この外に県独自の構想を加えて、沿岸漁業の振興に重点をおきたい考えであります。その挙例をげますと従来に獲る漁業から作る漁業への転換、つまり海の牧場ともいうべき魚類養殖業、のり沖合養殖を中心とした管理漁業の振興、更に企業の漁家経営に推進するため漁業の組み合せや、協業化等従来からの不安定な漁家経営から脱却することが必要であると考へます。

またその漁村の立地条件によっては観光とか遊魚に結びついた振興策も、沿岸漁村の新しいゆき方として大いに伸ばすべきであります。また埋立などによって、漁場を失われる阪神播磨の沿岸においては、漁業者の方が望むならば転業の途も開いて行きたいと存じます。その他、いろいろな対策も考へられますが、これら国や県の施策もすべて漁村の皆さん方の盛り上げる意欲によってのみ推進されるのであります。具体

的には生産の技術、経営の技術、生活改善の技術等がその基となるものと思ひます。

本大会が始まって以来今年で十年目を迎え、この間これ等の問題ととり組んで実践活動を続けておられる皆さん方に、心から敬意を表する次第でありますと共に、漁村の将来の希望を双肩に背負っておられる青年諸君や、御婦人方に絶大の期待を寄せるものであります。

どうぞ皆さん御健康に充分気をつけて夫々の漁村で一層の御活躍をされるよう願ひいたしまして挨拶とします。

研究実績発表者

するめいかつり漁業について

諸寄水産研究クラブ

大谷 憲 司

よこわ曳縄つり漁業について

柴山港水産研究クラブ

木村 武 雄

まるごつりについて

三尾水産研究クラブ

中村 新一

研究クラブとともに10年

柴山港水産研究クラブ

今 西 延 一  
共同購入事業について  
明石浦漁協婦人部  
村 上 種子

新港につながる夢  
浜坂漁協婦人部  
木村 百合子

漁家婦人とグループ活動について  
都志漁協婦人部  
播 磨 好 子

婦人部貯金について  
林崎漁協婦人部  
高 木 やくゑ

仕切日の延長について  
屏風浦漁協婦人部  
橋 かずゑ

家計簿記帳グループの生れるまで  
西二見漁協婦人部  
浦 部 と よ

なお本月十二日より東京において開催される、第八回漁村青壮年婦人研究グループ全国大会には、兵庫県代表として次のクラブが発表されることに決定しました。

諸寄水産研究クラブ  
大谷 憲 司  
「するめいかつり漁業について」  
(以上)

# 新生活と貯蓄

## 全国婦人のつどいに参加して

北 井 り よ

去る一月三十日、三十一日に東京の九段会館において、新生活運動協会、貯蓄増強中央委員会の主催による、第四回「新生活と貯蓄、全国婦人のつどい」に参加しましたので、その概要を簡単にお伝えしたいと思います。

この全国婦人のつどいに参加しました婦人団体は、主婦連合会、全国地域婦人団体連絡協議会、全国農協婦人組織協議会、全国漁協婦人部連絡協議会、全国未亡人団体協議会の五団体であります。

会場内では座席が異別や団体別ではなく、知らない人達ばかりでしたが、その中に昨秋の全国漁協婦人部大会で見かけた漁協婦人部関係の方々の顔が見えますと、何とも云えない親しさを感じました。

貯蓄増強委員会事務局長の飛田先生の開会の言葉より始まり、日本銀行の山際総裁の祝辞がありました

「消費意欲の抑制、分相応の生活をして健全なる社会を造らなければならない、その社会は各人の家庭が基礎であって、その家庭の中心は主婦でなければならぬ」とのことでしたのでとても責任感を感じさせられました。

続いてそれぞれ参加団体の会長さん達の挨拶があり、皆さん堂々とした立派な御挨拶でしたが、とくに私達漁協婦人部の会長さんの御挨拶は大変立派で、ひしひしと身に迫るものがありました。どの会長さんも一貫して消費面のことについて強調され「欲しい物を買うのでなく、必要な物を買う」という言葉が強調され私は胸に強く感ずるものがありました。

次に分科会の内容をお伝えしたいと思います。

### 第一、第二分科会

「消費態度の合理化をめざして」  
わが国の一人当りの国民所得は米

国の均英の均なの、テレビの普及率は米国について世界第二位で、電気洗濯機は西独、仏国と肩を並べている。それ位消費は盛んで月賦は二戸に一戸が利用している収入と消費のバランスがとれていない、その原因は人まね、見栄、競争、欲望の五つから起るもので、収入にバランスのとれた、そして便利で楽しく合理的なしかもレジャーのある文化生活を維持するにはどうしたらよいかこんな要旨で体験発表がされ、いろいろ討議されました。

消費者の自主性が第一番で、宣伝やマスコミにまどわされなくて無駄をしないこと、よく「安物買いの銭うしない」と云う事が云はれますが、品物についての知識を深めること、また助言者の飛田先生から消費の合理化をめざして、財産管理も大切で、

- 1、必要な時にいつでも融通のきくもの、
- 2、有利なもの、
- 3、危険性のないもの、

などをあげられました。また近藤先生から、テレビや電気洗濯機等があるのに、体温計や氷枕のない家庭のアンバランスな生活や、成人式の訪問着等もあげられましたが、要す

るに自分自身がしっかりした信念をもつて、自主的に分相応な生活が一番肝心だということでありました。  
第三、第四分科会  
「ひとりひとりが幸せになるために」

現代の社会においては、自分だけが幸福になるということは考えられず、特に民主主義社会においては個人個人が正しい市民となり、そして世界平和であり、国が町が村が一人一人を大切に政治を行ってこそ、始めて私達は幸福になり得ると信じます。しかし私達主婦は世界国家というような広い範囲の幸福を求めるのもさる事ながら、自分達の身近な地域社会を良くする事から始めるべきであり、そうするために良き市民として正しい批判を身につけると共に、正しい事に対して自主的な行動ができる主婦になるということが先決であるという考えのもとに、浦和主婦会の共同活動等いろいろ実績を発表され、活潑な意見の交換がありました。

また愛知県母子福祉連合会から、全未協創立拾周年記念事業の「お母さんの貯金旅行」計画に呼応して昨年十二月伊豆大島めぐりを行いました。旅費は一人三、三〇〇円でこれ

を毎月三〇〇円以上郵便貯金で積立て、参加者は二六五〇名で三班に別れ二泊三日の旅行でしたが、何分にも未亡人は永い間子供育てのための苦勞を重ねてきて、自分の楽しみなど全く犠牲にして暮してきた人達です。ですからその喜びは大変なものでした。しかしこの旅行は「わが幸せはわが手より」のモットー通り、自分で働いて自分で貯めて実行したので、すから感激は忘れられません、と云ったような、つつましい事を大変喜

んでおられました。結論として、要するにひとりひとりの幸は個人の考え方、暮し方によって、また経済的精神的にいろいろ異なると思うが、日々の暮しの中に自分の幸を見出し互に生きがいを感じ、感謝しながら其の気持を社会のためにつくり、心を豊に婦人の力人の責任で、手を取り合って努力しましょうということでありました。

以上

## いかなごの漁況予想

二月も半ばになり、いかなごの漁期が近づき、水産試験場でその調査の結果を発表されたのでお知らせします。

(これから始まる「いかなご」漁に非常に関係の深い海況はどんなものですか。)

「大阪湾、播磨灘とも昨年の十二月上旬の水温は、十七度から十八度より一度半位高かった。また明石港の平均水温は十四度四で、いつもの

年より水温は一度近く高かった。既ち十二月下旬には寒さが強くなったが昭和三十五年十二月の時程強くなかったため、大阪湾、播磨灘とも水温の下り方が急激でなかった。上方の水と底の方の水の混合は例年よりおくれた模様です。」

(それではどのような海況でいかなごの産卵状況はどのようなになっておられますか。)

「今年の産卵状況を説明する前に、今まで長い間に調査した結果から、いかなごのしんこの豊漁年と不漁年

の水温変化をみると次のようになっていきます。既に豊漁の年は十二月から一月にかけて水温が下っているが、反対に不漁の年には上っているようです。そして播磨灘の鹿の周辺のいかなごの最も大きい産卵場のようである時期は普通十二月の中頃から一月中旬頃で一番産卵の盛んな時は十二月下旬のようです。そしていかなごの卵はいわしやたいと違って上に浮かず底に沈んでひっくり性質をもっていて、卵からうまれるまでに水温が十二度位の時で九日位かかります。卵から生れた幼魚は上層で潮にのって流れているので此の時期の海況が非常に重要な役割をはたしておるわけで、一般的に言って冬寒さが酷しい年は豊漁型で、暖冬の年は不漁型になっていきますが今年の場合は産卵期になるまで暖冬型になっています。」

(産卵期まで暖冬型であったということはちよつとがっかりしますが、実際試験場で今年調査された結果はどうなっていますか。)

「試験場で産卵状況を知るためにいつも十二月前からとれる親魚を調べると、この時にとれるいかなごはほとんど一年魚(去年生れたいかなご)で普通の年だと平均の体長は八糎から八糎五糎位で腹の中に持

っている卵の数は千五百から二千個位です。ところが今年はいかなごは体長七糎五糎位で小さい。これは去年のしんこが多すぎたので餌などの関係もあり成長が普通の年よりおくれたのであらうと思われます。この親魚の卵巣の状態から推定すると此の度はいかなごの産卵は去年の十二月二十日頃から始まり十二月二十五日頃から本年一月五、六日頃が最も盛んな時であったと考えられます。既に一月八日にとれた一年魚は九割以上のものが既に卵を産み終っておりました。

また卵を産む親魚は一年魚だけでなく二年魚及び数は少いが三年魚もあるわけですが、普通その割合は一年魚が六割から七割で残りの四割から三割が二、三年魚です。しかし腹の中にもっている卵の数は四千から四千五百個で一年魚にくらべると約二倍の卵をもっております。従って二、三年魚が多いと多量の卵が産まれるわけですが今年はこの割合が少いようであり、しかも去年の夏一年魚が死んでいるのもあるようなので、去年のしんこは非常に多量に発生したが卵を生むまで残っているのは大分少くなっているのではないかと考えられるので、全体の産卵量は少な

「今年一月八日から十一日の間大阪湾、播磨灘で広い区域にわたって調査したが採集されたのは一尾だけでつづいて一月十六日に調査した時は四六尾採集されました。此の稚魚の大きさは平均体長三・一八耗で、普通今までのものでは此の時期になると四・四〇耗になっています。これはおそらく産卵が約十日程おくれた結果であろうと思われますし、また採集された稚魚の数も少いようです。」

（今までの調査結果をきくと非観的な面が多いようですが最後にこれから先の漁況の見通しは如何ですか。）

「フルセは殆んど産卵を終っているので、盛んに餌をとり始めて肥りつつあるが例年よりやや小型のものである。二、三年魚のフルセの量は少いが一年魚のフルセはこれから始まるパツチ網では好漁が予想されます。シンコの漁は今まで話して来たように産卵期が十日程おくられていること、産卵量が少いと考えられること等により、今后特別な海況の変化がなければ例年の漁獲を下廻るものと思われます。」

（水試）

## 第二十八回全国水産品評即売会の開催について

例年により全国の水産製品を一堂に集め製品技術の向上並びに消費宣伝を行う全国水産品評即売会が左記の要領により開催されますのでお知らせいたします。

一、目的 水産加工業者の生産意欲を増進し、水産製品の品質の向上と宣伝紹介並びに輸出の振興と販路の拡張を期する。

二、名称 全国水産品評即売会

三、総裁 神戸市長 原口忠次郎

四、主催 神戸水産協議会

五、後援 水産庁、兵庫県、神戸市、神戸商工会議所

六、会場 神戸三越六階

七、会期 昭和三十七年三月十日から三月十五日まで、

八、出品者 全国水産製品生産者並びにその団体及びその取扱業者。

九、出品物の範囲 魚介藻類干製品及び塩製品、練製品、煉製品、調味加工品、つくだに、びんかん詰、冷凍品、こんぶ加工品、かつを削節類、くん製

品、水産物貿易品、さんご、真珠、ベ

つ甲、鯨骨加工品、その他水産特産品。

十、出品要領

(ア) 出品点数 出品の点数は制限しない。

(イ) 出品数量 数量は、必ず一点二個以上とし、販売価格(小売)を明記すること。

(ウ) 申込手続 出品希望者は別紙申込書により、本会(神戸市兵庫区船大工町神戸市中央卸売市場業務課気付)

(エ) 申込期間 三月五日までに本会に到着するように申込むこと。

(オ) 出品物の搬入、搬出

1 出品物の会場への搬入は、会期前日までに、出品者において搬入すること。ただし、受付時間は、午前十時から午後五時までとする。

2 出品物を送付する場合は、会場まで配達つきにて前日までに、必着するように送付のこと。(宛先は神戸市(中央局区内)生田区元町通六丁目四〇三越神戸店全国水産品評即売会行と明記のこと。)

3 出品物は、搬入目録を同封又は持参のこと。

4 審査日は翌日になりますので、特

に煉製品は、この点をご勘案の上出品のこと。

5 出品物の荷造、運送、搬入、搬出等の費用はすべて出品者の負担とする。

十一、宣 伝 会の一般的な宣伝は、主催者において行うが、特に必要ある場合は、出品者の負担において行うも差支えない。ただし、その場合は本会に申出ること。

十二、小間出品(即売)

(ア) 出品者は、希望により小間を専用することが出来る。

(イ) 小間に対する一般的な設備は、本

会において行うが、その他必要な装飾は出品者において行うこと。

(ウ) 小間使用料は、一小間一〇、〇〇〇円(全期間中)とし、申込と同時に納付すること。

(エ) 即売を希望する場合は、その数量及び販売価格を、所定の様式に必ず明記のこと。

(オ) 販売手数量は、売上高の15%と

する。ただし、販売諸経費は当会負担とする。

(カ) 会場の都合により、申込が、予定小間数をこえた場合は、主催者において選択する。

十三、出品の審査 出品物の審査は、別に定める審査要領により、三月十一日(開場の翌日)に行う。

十四、表彰 審査の結果、優秀なる出品物の出品者に対しては、賞状(農林大臣賞、水産庁長官賞、知事賞、総裁賞、技術賞)及び副賞を贈呈する。

十五、感謝状、記念品の贈呈 全出品者に対しては感謝状及び記念品を贈呈する。

十六、出品物の管理保護 出品物の会場搬入後、会終了日まで、主催者は十分な保護をなすが、不可抗力による損傷に対しては、責を負はない。

十七、出品物の会期終了後の処理

(ア) 展示品は、原則として返品しない。ただし、特別な場合はこの限りでない。

(イ) 小間出品者は、会期終了後、二日以内に搬出することを原則とするが返送、又は神戸市中央卸売市場卸売人に販売の委託を希望するものは、本会に申出ること。

(ウ) 清算は、会期終了後直ちに行う。

# 日本海側は不漁、瀬戸内海の「いわし」 いかなご」は前年同月を上廻る

昭和三十六年十一月の海面漁業による兵庫県の漁獲量は九、四四六トンで、前年同月より六五六トン(七%)増加した。これは瀬戸内海区の船びき網による「いわし」「いかなご」の漁獲量によるものであり、日本海区においては各漁業とも減少している。他府県船による水揚は四五三トンで、福井、京都、鳥取、島根の底びき網船、きんちやく網船が入港水揚した。

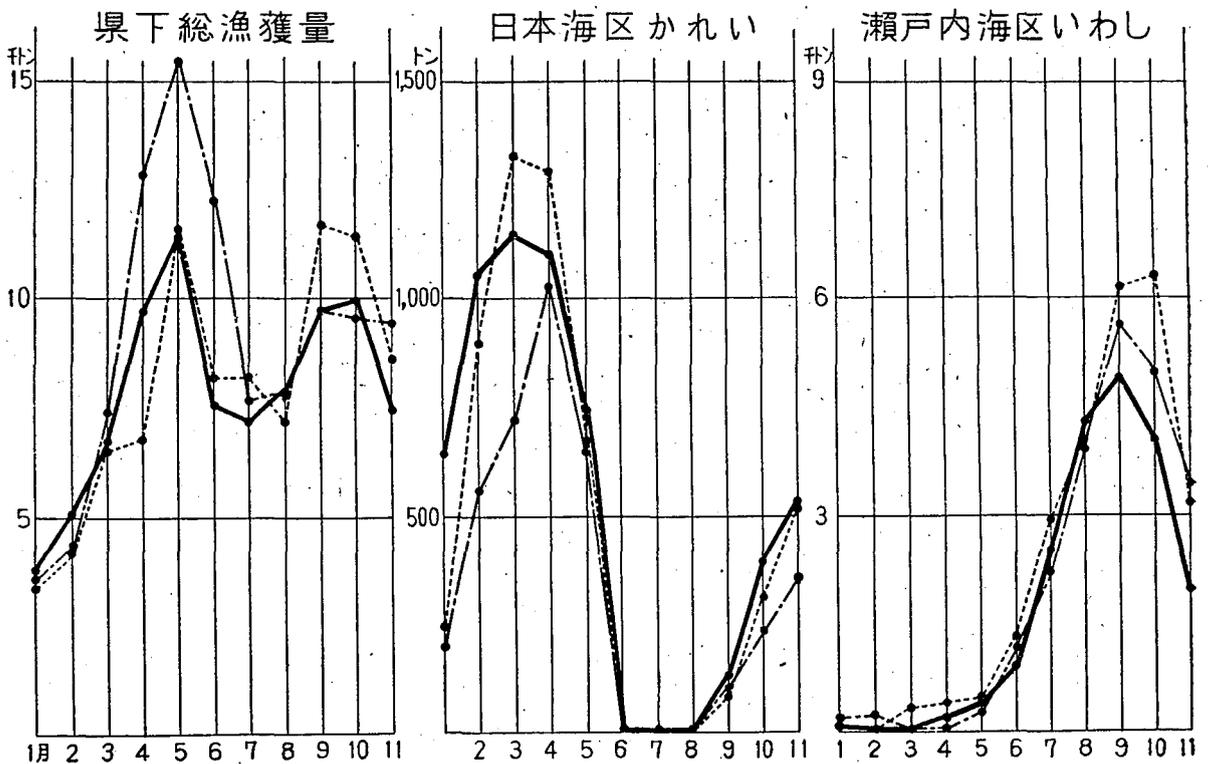
**日本海区** 総漁獲量は二、八三九トンで前年同月より二七%、過去五カ年の十一月平均漁獲量より二〇%、それぞれ減少し、出漁日数は前年同月より約一、一〇〇日増加しているから、各漁業とも、一日当りの漁獲量は大巾に減少したこととなり、わずかに「ぶり」「まぐろ」類の来遊によって釣漁業の漁獲が増加したのみであった。魚種別にも「いわし」「あじ」「さば」をはじめ、中型底びき網の「かれい」「たら」「はたはた」等日本海区の主要魚種は前年同月あるいは過去五カ年の十一月平均漁獲量にくらべてそれぞれ減少しており、ことに「いわし」「かれい」「たら」は月別の漁獲量に若干の増減は見られても、年々減少する傾向がうかがわれる。「ずわいがに」は前年同月より七%減少しているが過去五カ年の十一月平均漁獲量より二〇%増加しており底びき網漁業の主な収入源となっている。「にぎす」は前年同月の約三倍近くが漁獲されているが過去五カ年の十一月平均漁獲量にくらべるとわずかにその三分の一の漁獲量にすぎない。

**瀬戸内海区** 総漁獲量は六、六〇七トンで前年同月より三五%、過去五カ年の十一月平均漁獲量より六八%それぞれ増加した。その主因は船びき網による「いわし」「いかなご」の漁獲が増加したことによる。十一月の内海漁業は出漁日数の増加によって増加させているが、船びき網は一日当りの平均漁獲量も前年同月を大きく上廻っていた。魚種別において最も増加したのは「いかなご」で、前年同月の約八倍にあたる漁獲をあげているが、その殆んどは「ふるせ」で淡路西浦の船びき網によって漁獲された。「いわしの」漁獲は前年同月より八%増加しているが、これは夏仔および秋仔の発生があまり良好でなかったため(水試調べ)稚仔魚の漁獲が少なく比較的魚体の大きなものが摂津海区の船びき網によって漁獲されたことによるものと思われる。巾着網による「いわし」は播磨海区において前年同月の約一・五倍を漁獲したが、摂津、淡路海区の中着網は前年同月より、前者は $\frac{1}{2}$ 、後者は $\frac{1}{3}$ に減少していた。そのほか「はまち」「いか」「たこ」等が前年同月より、それぞれ二倍あまりの増加を示し、「はまち」は主に吾智網および釣漁業、「いか」「たこ」は底びき網、釣漁業およびたこ壺によって漁獲された。又「まだい」「さわら」は前年同月より前者は五%、後者は八%それぞれ減少した。

本年の月別漁獲量と前年および過去5カ年平均漁獲量との比較

—— 過去5カ年平均  
—— 本年  
- - - 前年

農林省兵庫統計調査事務所



昭和36年11月の海面漁業漁獲量 (単位:トン)

海区 年次	総 計				日 本 海 区				瀬 戸 内 海 区			
	36年	35年	増減量	%	36年	35年	増減量	%	36年	35年	増減量	%
魚種	9,446.8	8,790.4	656.4	107	2,839.2	3,880.8	△ 1,041.6	73	6,607.7	4,909.6	1,698.1	135
い わ し	3,501.7	3,390.3	111.4	103	52.3	187.9	△ 135.6	28	3,449.4	3,202.4	247.0	108
あ じ	260.0	902.4	△ 642.4	29	191.1	827.3	△ 636.2	23	68.9	75.1	△ 6.2	92
さ ば	79.4	254.2	△ 174.8	31	79.4	254.2	△ 174.8	31	—	0.1	△ 0.1	—
ぶ り	78.3	29.1	49.2	269	43.9	12.5	31.4	350	34.3	16.6	17.7	207
ひ ら め い	447.1	597.9	△ 150.8	75	359.8	527.1	△ 167.3	68	87.4	70.7	16.7	124
た ら	5.5	61.1	△ 55.6	9	5.5	61.1	△ 55.6	9	—	—	—	—
は た は た	182.7	239.6	△ 56.9	76	182.7	239.6	△ 56.9	76	—	—	—	—
に ぎ す	152.1	53.2	98.9	286	152.1	53.2	△ 98.9	286	—	—	—	—
さ め	11.6	10.4	1.2	112	2.6	1.1	1.5	248	9.0	9.3	△ 0.3	96
は も	29.4	28.7	0.7	102	—	0	△ 0	—	29.4	28.7	0.7	102
ま だ い	16.9	21.9	△ 5.0	77	5.0	9.5	△ 4.5	53	11.8	12.4	△ 0.6	95
さ わ ら	52.8	57.4	△ 4.6	92	—	—	—	—	52.8	57.4	△ 4.6	92
ぼ ら	21.2	14.0	7.2	152	—	0	△ 0	—	21.2	13.9	7.3	153
す ず き	33.9	13.9	20.0	244	0.6	0.8	△ 0.2	85	33.3	13.2	20.1	253
魚類	1,046.5	124.8	921.7	839	—	—	—	—	1,046.5	124.8	921.7	839
あ な ご	108.7	95.9	12.8	113	1.0	0.3	0.7	325	107.7	95.6	12.1	113
そ の 他 の 魚	621.8	439.5	182.3	141	292.6	143.5	149.1	204	329.2	296.0	33.2	111
(魚類計)	6,649.7	6,334.2	315.5	105	1,368.8	2,318.1	△ 949.3	59	5,281.0	4,016.1	1,264.9	131
水産動物	10.3	18.1	△ 7.8	57	10.3	18.1	△ 7.8	57	—	—	—	—
す る め い か	365.6	157.7	207.9	232	22.2	26.4	△ 4.2	84	343.4	131.3	212.1	261
そ の 他 の か	390.3	188.9	201.4	207	17.2	15.6	1.6	110	373.1	173.3	199.8	215
た こ	606.5	544.0	62.5	111	195.4	173.6	21.8	113	411.1	370.4	40.7	111
え び	1,237.0	1,323.9	△ 86.9	93	1,204.2	1,301.4	△ 97.2	93	32.8	22.5	10.3	146
か に	17.5	33.5	△ 16.0	52	0	—	0	—	17.5	33.5	△ 16.0	52
な ま こ	0	0.1	△ 0.1	69	—	—	—	—	0	0.1	△ 0.1	69
そ の 他 の 水 産 動 物	2,627.2	2,266.2	361.0	116	1,449.3	1,535.0	△ 85.7	94	1,177.9	731.2	446.7	161
(水産動物計)	164.8	188.2	△ 23.4	88	19.3	27.4	△ 8.1	70	145.6	160.8	△ 15.2	91
貝 類	5.0	1.8	3.2	27	1.8	0.3	1.5	596	3.2	1.5	1.7	211
貝 類												

(注) △は減 0は漁獲量50kg未満(50kg以上は100kgに切上げ)